

# ふるさと奥尻通信

令和元(2019)年7月12日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

文化財として保護するということは、すでにそのモノ自体が衰退しているか、壊れるかしてきていることの裏返しとも言えます。後世まで残すということは、簡単ではないけれども、重要なことです。

## 特集 奥尻町の文化財 ー奥尻町指定文化財編ー

### ・宮津弁天宮(建造物) 奥尻町字宮津83番地

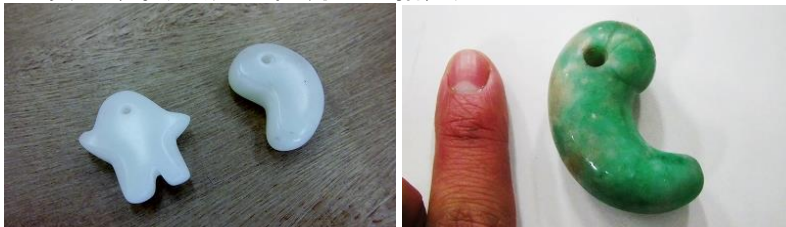
文政年間(1818~1829)に、地元漁民の手によって氏神として境内と社殿が創設され、海上安全と豊漁を祈願して弁財天が祀られました。その後、広島の大島神社より宗像三女神が祀られ、天保12年(1841)に祭神(長女の奥津島姫命)が奥尻地区に移され、現在の奥津神社となります。古くは9世紀頃のオホーツク文化の遺跡や、16~17世紀頃のアイヌの岩・祭祀場であるチャシが築かれていたと考えられ、その“チャシ”は“茶津”(宮津の旧名)の語源になったとされます。(平成11年7月26日指定)

### ・鍋釣岩(名勝) 奥尻町字奥尻奥尻海岸沖

高さ約19mの奇岩で、その形が鉄鍋の弦(つる)に似ているところから命名されています。海底の溶岩が噴出しかかったまま冷却されて固まり、後世に軟質だった周囲の岩盤が消滅して、溶岩部分だけが取り残されたものです(安山岩)。岩に生えている植物はヒロハノヘビノボラスと言い、棘があって、蛇が登れないというのが命名の由来。震災の影響で若干崩れたため補強してあります。(平成11年7月26日指定)



鍋釣岩 昭和40年代



勾玉づくりも体験できます

丁字頭勾玉 5cm、50g

### ・丁字頭勾玉(有形・美術工芸) 奥尻島津波館展示

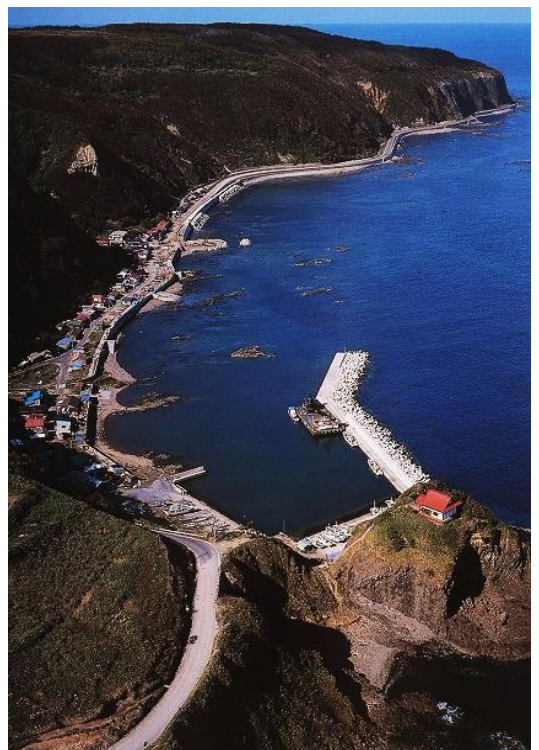
北日本で最大級、非常に希少な勾玉です。形状や特徴から弥生時代末期~古墳時代の西日本に由来する一級品の丁字頭勾玉です。糸魚川産のヒスイ原石を用いた勾玉は近畿地方を中心とする西日本に多く発見され、古代における交易の結果、奥尻島にもたらされたと考えられます。一方で、『日本書紀』の記述にある、斉明天皇6年(660)の阿倍比羅夫蝦夷地遠征における、北方民族との激戦地「へろべ島」が、実は奥尻島であり、そこで戦死した武将「能登臣馬身竜(のとおみ まむたつ)」が葬られた時の副葬品が、この勾玉ではないか、という見解があります。(平成21年12月22日指定)

### ・徳洋記念碑(建造物) 奥尻町字青苗 青苗岬先端(徳洋記念緑地公園内)

明治13年(1880)に青苗岬で英国軍艦が座礁した際、乗艦していた有栖川宮威仁親王の遺徳と国境を越えた救助活動の美德を讃えるものです。当時、親王が海軍少尉補として乗船し、訓練のため遠洋航海の途中、青苗沖に座礁しました。親王は島に上陸し、島民や他国の軍艦とともに救助活動にあたったといえます。後、青苗在住の郷土史家であった三国十次郎は、この事績を後世に伝えようと精力的に情報収集に努め、海軍協会の協力もあって、昭和6年(1931)に徳洋記念碑が完成しました。全長約17m、鉄筋RC造で、北海道庁営繕課の設計・管理の下、道内でも古参の地崎組が施工しました。昭和58年(1983)の日本海中部地震津波と、平成5年(1993)の北海道南西沖地震津波に耐えた近代建造物であり、奥尻の歴史を見守ってきた貴重な記念碑です。(平成26年10月1日指定)



徳洋記念碑の前でパチリ 昭和30年代



弁天岬と宮津弁天(赤屋根) 昭和50年代



昭和30年代後半の稲穂灯台と稲穂岬。灯台の後方には職員の官舎が数棟あり、渡り廊下で事務所とつながっています。冬場の風雪の厳しさが想像されます。稲穂岬は浅瀬の岩礁地帯で難破船や漂着物が多く、明治10年代より灯台整備が急がれ、同24年に点灯しました。同20年にはお堂が建てられて法要が行われるようになり、現在の「賽の河原祭り」につながっています。休憩所や土産物屋が整備されるのは昭和50年頃です。



学芸員オス  
スメの一冊を  
ご紹介しま  
す。本は海洋  
研修センター  
図書室で借り  
られます。

北海道共和国のオキテ100カ条  
佐藤のりゆき・水本香里監修

てんを切る(トランプをシャッフル)、燃料手当、大根抜き、観楓会、香典の領収書、会費制結婚式、信号機が縦、霧とジリの違い、絆創膏はサビオ、「なまら」と「わや」、「なした?」と「なんも」、「したっけ」の使い分け、豚汁は”ぶたじる”、きびだんごは板状、番茶=ほうじ茶、おやき=大判焼き。北海道ならではの風物詩、風習、癖から好みまで100条にまとめた。



奥尻のつり 春号

今年の春ボツケは、昨年に続きやや上向き、漁師の底建て網も忙しそうに青苗港へ水揚げしていました。磯釣りで、やはり宮津弁天下が良好なポイントで、4月中旬から5月連休にかけて釣り客で賑わっていました。釣果を見ると、50cm級の特大根ボツケは少なく、40cm半ばごろの手ごろなサイズが中心でした。毎年釣りに来ている小樽方面の方に取材したところ、ホツケは別な地域でも釣れるが、奥尻のものは大きさ、脂の乗りが格別だ、ということでした。連休明けには遠く三重県からの釣り客も見られ、奥尻島がいに注目されて魅力的であるかが実感できました。6月からはヒラメ、沖のソイ釣りが主流となり、いよいよマイカ漁が解禁となります。イワガキ養殖とともに好漁が期待されます。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月 第35回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より  
とける一落賊れい皆百しかな暗艘かずくいたけた  
した。針とがいで寝位たなくいもっん船た。た。す  
て。朝落し大しつてつ。いな。いた、もら島。良ぐ  
歸大迄とてきたけしけ又のつ五なら流あ釣を又い流  
っ漁つししいのたまたつてた六いつしつが作見所し  
て旗いたまので。っ。い、十のいてたなるけにた  
来をた、って皆十た俺た太又尾でた太。くんで来ら  
た場のしたトを二が達。田流も安。田俺なだ他たい  
。げでと。ン起時、の今のしつ心太の船っる船とき  
て五言他ボこか俺船度沖てけし田沖はてうが一な  
意六っのしらはのはに見たたのにそ戻とや生り  
気百て人針た強眠人一錨たら。方差のっ思っ懸つ  
場もいも三。くら達人をがっ少にしまてって命い  
々つ 本鳥釣なはで下つかし一かまいて来つ

にラ配〇とし団こ難風マを  
実ぶさ〇瀬た結こ題、ラ迎六月  
施ルれ名棚。しはにフソえた五月  
でもま減航当てもエンた五日  
きなしの路初無数直り。奥尻日、  
まくた募休は事を面一当尻日、通  
し、が集止、に踏しの日ム、通算  
たコ、とにホ乗んま欠は一、通  
ン大なよテリだし航雨ン算六  
パきつりル切町たとやラ回  
クなて、休り民がい強イ目  
トト心一業まが、う

第六回大会無事終了



きっとあなたにも幸運が!

しが見うかすてらい一た白とさ  
てあつでら。いすも匹。いこん五月  
いるけ、ナこる縁ののなナろが月  
まだて最マの地起ら割んマ、ナ十一  
しろ、初コ漁域物し合でコ鍋マ一日  
たうきの漁師もだくともが釣コ日、  
。とっ年にさあと、い、見岩漁、  
、とに参んるし幸う三つ近を地元  
笑良縁加はよて運大十かくしの方  
顔い起し、う珍を變万りのての  
でこ物た今で重も珍匹ま海の漁  
話とをそ年 したしににした師

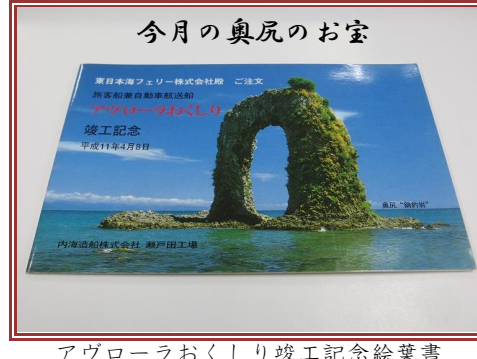
幸運を呼ぶ白ナマコ

万てすンとし平昭あ成とも  
福も。プ。ま成和るジは新改元  
(満世かなるた過生うンわでと  
腹)のよどを、れす。とせやまし  
を人世う。指令和結ないんが。て  
祈りの中努和との入せで言。一  
ま健で力もものつずも、葉。平  
す。康あしジこてに、が平

新衣之記録 (編集後記)

北れか八たれな六でた。サヤ稲  
上、ら日のたり日放。ギ一岬五  
し島放には個ま間た調マと岬月  
たをた上初体すでれたベダマの三  
事離れ川めが。飛たたラ一周日  
もれた町で奥他ん蝶とがキ辺日、  
判て個でで尻のががこ発ンで、  
らが一。見所た千、ささトの北  
さ発日まつでこキ徳れれク端  
ら見にたか放と口島またス  
にさ島、つたにを県シア

アサギマダラ発見連続!



アヴローラおくしり竣工記念絵葉書